

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	平野区
学 校 名	喜連西小学校
学校長名	千葉 法幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立喜連西小学校では、第6学年 75名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○平均正答率

国語科 本校58%（大阪市65% 全国66.8%） 算数科 本校46%（大阪市58% 全国58%）
理科 本校49%（大阪市55% 全国57.1%）

○児童質問紙

「自分には、よいところがあると思いますか」 本校86.5%（大阪市86.9% 全国86.9%）

「将来の夢や目標を持っていますか」 本校92%（大阪市83.1% 全国83.1%）

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 本校96%（大阪市96.1% 全国96.4%）

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語科】

平均正答率は、昨年度より3ポイント低く、対全国比においては8.8ポイント低いという結果となった。「A話すこと・聞くこと」に関しては、対全国比が5.9ポイント低く、「伝える内容を検討すること」や、「自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」が問われており、昨年同様、「自分の意見を相手にわかりやすく伝えること」に課題があることがわかった。また、「B書くこと」に関しては10ポイント低く、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる」に課題があることがわかった。また、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」については全国・大阪市平均と同水準できることがわかった。「C読むこと」に関しては10.5ポイント低い結果になっており、特に「読みの力」が低いことがわかった。基礎学力の向上のため「読みの力」に焦点をあて、継続して指導いく必要がある。

【算数科】

平均正答率は、昨年度より15ポイント低く、対全国比では、12ポイント低い結果となった。また、各領域においては、「A数と計算」が11.8ポイント、「B図形」が9.2ポイント、「C測定」が21.7ポイント、「D変化と関係」が11.6ポイント、「Dデータの活用」が12.3ポイント低い結果となった。すべての領域において全国平均より低く、基礎学力の向上が課題であり、習熟度別学習などを行うことで、児童の実態に応じた学習ができるような場の工夫をしていく必要がある。

【理科】

平均正答率は、対全国比で8.1ポイント低い結果となった。各領域においては「エネルギー」が10.6ポイント、「粒子」が3.4ポイント、「生命」が11.1ポイント、「地球」が8.4ポイント低かった。全領域において全国・大阪市平均に及ばなかった。図や実験の流れ、結果をただ単に覚えるだけでなく、「なぜそのようになるのか」「どうすればそのようになるのか」などを考えることから答えを導き出し、その過程から知識や技能に結び付けていくことで、理科の面白さや楽しさを気付かせる工夫が必要である。

一方で平均無回答率は、すべての教科において全国・大阪市平均より下回っており、すべての問題に対して、回答しようという意識がうかがえる。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に対する肯定的な回答は、全国・大阪市平均と同水準である。また、「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問に対する肯定的な意見は全国・大阪市平均を上回っており、自己肯定感の高さがみられる。また「将来の夢や目標を持っている」の質問では、肯定的な回答が、全国・大阪市平均より高い結果となった。継続して取り組んでいる「スクールワイドPBS」を中心とした取組が、児童の自己肯定感や自己有用感の向上につながっていると考える。今後も児童同士の関わり合いの場面を多く設定しながら、楽しい学校づくりをめざしていく。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、基本的な知識・理解の力が十分に身につけていない現状があり、漢字の読み書きや、計算問題等を反復練習できるようにしていく必要がある。そこで、以前より行っている「エビデンスベースの学校改革」を軸とした教育を継続していく。算数科では、取組の1つである算数チャレンジを継続していき、エビデンスのとれた学習法による基本的な計算力の向上と、学習に対する達成感を味わうことができる場を積極的に設定していく。また、本校の研究教科である国語科では、児童同士が交流する場面を設定し、学び合える授業をめざしていく。併せて、「習熟度別少人数授業の実施」「高学年を中心とした教科担任制による指導」「主体的・対話的で深い学びの表現」「大学連携」等、大阪市が注力している施策の充実と強化を継続して進めていく。自分から（主体性）、友だちと（協働性）、工夫して学ぶ（創造性）子どもを育成するためにも、家庭との連携を図り、笑顔あふれる学校になるように取り組んでいく。

グローバル化や人工知能（AI）等の技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代を乗り越えていく能力が必要とされており、自ら学び・自ら考え・自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り開いて行く力を育成するために、学校を通じて子どもたちの「生きる力」を育んでいく。